

## 第4期 第4回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日 時：平成27年2月27日(金) 17:00～19:00

場 所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 19名

自立生活支援課長

自立生活支援課障害福祉係長

自立生活支援課相談支援係長

自立生活支援課障害福祉係副主査

地域生活支援センター そら 1名

配布資料1：相談支援部会 報告資料

2：生涯発達支援部会 報告資料

3：生活支援部会 報告資料

4：第4期小金井市障害福祉計画

5：第4期小金井市障害福祉計画に対するパブリックコメントの結果

6：地域自立支援協議会報告書（案）

7：第4期第3回地域自立支援協議会議事録

回覧資料：第3回第5ブロックにおける自立支援協議会交流会資料

### 1. 開会

高橋会長	ただ今から第4回的小金井市地域自立支援協議会を開催する。 なお、本日、水野委員から業務のため遅刻の連絡が入っている。 会議に先立ちまして、本日から新しい委員が参加していますので事務局から紹介していただく。
事務局 (染谷係長)	前回の全体会で、赤木委員がお亡くなりになられたことをご報告したが、赤木委員をご推薦いただいた小金井身体障害者福祉協会に再度委員就任のお願いし、本日ご出席の堀中栄様に委員のご承諾をいただいたので、堀中様に委嘱状を交付する。本日は公務のために市長が出席できないので、自立生活支援課長の堀池からお渡しする。
事務局 (堀池課長)	(委嘱状交付)
事務局 (染谷係長)	堀中委員から一言ごあいさつをいただきたい。
堀中委員	堀中です。今、紹介があったとおり小金井市身体障害者福祉協会の推薦である。前任の赤木さんは非常に行動的な方だったので、私もぜひ見習ってやりたいと思います。ただ、なかなかあの人みたいにバイタリティーはないかもしれ

	ないけれども、いろいろと勉強していきたいと思うので、今後ともよろしくご指導のほどお願いする。
高橋会長	本日からよろしくお願いする。部会については、どのような調整をしたのか。
事務局 (染谷係長)	堀中委員とのお話の中で、赤木委員と同じ相談支援部会にご参加いただくことでご承諾いただいている。
高橋会長	相談支援部会に入ることとする。 それでは、議事に入る。まず配布資料の確認を事務局からお願いする。
事務局 (染谷係長)	開催にあたり、配布資料(資料1～7)の確認。回覧資料として、第3回第5ブロックにおける自立支援協議会交流会資料がある。葦塚さんからご説明をお願いする。
事務局 (葦塚)	回覧資料は皆さまのお手元には配布していない。会長と副会長に1冊ずつお渡ししたので、手の空いたときに回して見ていただきたい。部数が多い関係で準備しなかったが、必要な方は後ほどPDFファイルで送付する。 第3回第5ブロックにおける自立支援協議会交流会には、自立生活支援課の岡本副主査と私、2名で参加している。各市の報告資料はそれに添付されているので、そちらをご参照いただきたい。
事務局 (染谷係長)	不足資料があればお手を挙げていただきたい。
高橋会長	次第に従って進行する。 議題(1)、部会からの報告である。12月、1月の議論の流れについて各部会から報告をお願いする。では、相談支援部会からお願いする。

## 2. 議題

### (1) 部会からの報告

森田純司委員	<p>相談支援部会は、本年度、相談支援の体制整備についてを中心に協議を行った。具体的には、計画相談支援事業所、指定特定相談支援事業所といった事業所の立ち上げにつながるような環境は何か。また、計画相談事業、サービス等利用計画の作成が加速化されるような体制とは何かということを話し合った。委員の中には、介護保険分野出身の委員や、権利擁護を担当する部署の委員や、精神保健分野の委員がいるので、具体的な議論が重ねられたと思う。</p> <p>成果物としては、加速化策の一環として、介護保険の制度を見習って、障害支援区分の認定資料の共有ができるような体制を所管課にお願いしていこうという課題がある。具体的には、介護保険は、要介護度認定の資料をケアマネジャーが申請すると、所管課に当たる介護福祉課からその資料が出てくるが、障害福祉分野においても同じような体制がとれないかというところをお願いしている。これには共通の書式をつくるなど調整が所管課と必要なので、それを今進めているところである。</p> <p>また、指定特定相談支援事業所にも厳しい守秘義務が課されるので、守秘義務が守れるような体制づくりをやっていければと考えている。</p> <p>介護保険分野との連携はとても大切で、特に、小金井にし地域包括支援セン</p>
--------	--

	<p>ターから参加している久野委員の協力を得て、介護保険分野のケアマネジャーとの連絡協議会の準備に取りかかろうとしているところである。</p> <p>国は、平成 27 年 3 月 31 日までにサービス等利用計画を利用者から出shite いただいて、障害福祉サービスが展開できるようにという指示が出ているが、平成 27 年度中にセルフプランもしくは事業者によるサービス等利用計画の作成をしなければならないところかと思う。来年度も相談支援の体制整備につながる協議ができればと思っている。</p>
高橋会長	<p>補足やご質問等ありますか。</p> <p>では続いて、生涯発達支援部会の報告を私から。資料 2 参照。12 月は、生涯発達支援部会の扱う対象が広範にわたっているのも、まず小金井市の概要について学ぼうということで、ボーバル委員から、学校から社会への橋渡しということで小金井市障害者就労支援センターの取り組みについて紹介をいただき、特に発達障がいの方々の就労支援の課題について議論がなされた。続いて、刀根委員から、小金井市の小中学校の特別支援学級の現状と課題について紹介があった。</p> <p>1 月は、森田史雄委員から、精神障がいの支援について、丁寧に動向などについて紹介がされた。とりわけ統合失調症と発達障がいの診断では見極めが難しく、その結果出てくる引きこもり、閉じこもりの問題などへの対応、あるいは家族会と障がい者団体の役割などについて丁寧な紹介があった。その後、第 4 期の障害福祉計画についても議論がなされた。</p> <p>何かご質問等ありますか。では、生活支援部会の報告をお願いします。</p>
矢野副会長	<p>生活支援部会では、防災・災害対策について、3.11 の体験談を各障がい分野の方から実際にヒアリングをしながら、どういう対応をしたらいいのか協議してきた。</p> <p>12 月には知的障がいの手をつなぐ親の会の会長さんに来ていただき、3.11 当日の様子や知的障がいの方たちを抱えている家族の課題について意見を聞いた。また、事業所では 3.11 当日にどのような対応があったか、体験も含めてお話をしていただいた。</p> <p>1 月は、重度身体と内部疾患等の障がいをお持ちの方にヒアリングを予定していたが、当日、寒い時期だったので、体調不良も含めて参加できず、具体的なお話を聞くことができなかったのも、何らかの形で意見聴取ができればと思っている。また、障害福祉計画についての検討をさせていただき意見をまとめている。</p> <p>防災パンフレットの作成を部会としては課題に掲げていたので、最後の資料として、非常災害時の避難時におけるお年寄り、子ども、障がい者への配慮をするために、パンフレット等をホームページに上げたらと思っている。次回の部会で検討して、協議会に諮って、皆さんにご了解いただければと思う。</p> <p>災害への備えということで、障がいを持っている方たちへ呼びかけるようなものを、馬場委員が中心にまとめている。また、非常災害時の避難所運営の 8 カ条という形で、避難所において、どのように皆で支え合っていっ</p>

	<p>たらいいか、簡単なスローガンを作ってみた。これを大きなポスターにして張ったりなど、いろいろなところで活用してもらえるといいかと思っている。これをホームページにアップしてはどうかとも思っている。</p> <p>避難所運営 8 カ条の 8 番に、黄色のバンダナが支援を必要とする方、緑のバンダナが支援をできる人と仮に書いたが、いろいろな防災ハンドブック等を見ると、支援をできる人が黄色のハンカチを付けていたりと様々なので、全国で統一したらいいかと思う。</p> <p>これをまとめるに当たって参考にした書籍は、クリエイツかもがわで出版している発達障害児の災害時の備えと防災マニュアルで、実際に茨城大学の先生方を中心にして、3.11 の時の被災者の実態、障害者の実態調査、聞き取り調査をしてまとめている。避難所ではどうあるべきか、災害時の福祉避難所の設置運営に関する協定書の案や、何が必要かという運営マニュアルの基本形が出ている。どこの自治体の資料を見るとよくできているとか、例えば、新潟の直江津では、地震体験をもとにしてすごくよくできた防災マニュアルがあるとか、どこのホームページを見たらどういう資料があるよという解説があるので、市でも買って持っているといいのかなと思っている。</p> <p>もう 1 つ、ここの中に、重症児者の防災ハンドブック、これが一番早く出たもので、医療的ケアの必要な人たちの対策をどうしたらいいかという実態調査をしたもので、かなり具体的に書いてある。今この間議論している福祉避難所、二次避難所の運営をどういうふうにしていくかという、機能分けとかすみ分けの議論をするときの参考になると思うので一応ご紹介しておく。もし機会があったらご覧いただきたい。以上で報告を終わる。</p>
高橋会長	<p>間もなく震災から 4 年が経過するが、放射能の管理を含めて事態は決してよくなっていない状況で、こういった対応を各自治体でしなければならない。ポスターならば冷蔵庫に張るようなマグネットがいいのか、常時小金井市のホームページにアップされて、いつでもダウンロードして見られるようにしたい。生活支援部会が作成したものが何らかの形になればと思っている。</p>
矢野副会長	<p>特にパンフレットにしたものは初めてのたたき台なので、いろいろ意見をいただいてつくり上げたい。少しイラストを入れるなど、特に障がいをお持ちの方のいろいろな備えについて書いてある部分は、市の地域安全課へ行くと様々な補助があり、何を買えるとか、もらえると、情報を箇条書きで入れておくと親切かと思う。様々なご意見をいただけたらありがたいと思っている。</p> <p>今日は皆さんに初めてお渡ししているので、確定ではなく、もう一度議論をさせていただきたい。気付いたことがあったらぜひご意見等願います。</p>
高橋会長	<p>持ち帰って目を通していただき、ご意見があればよろしくお願いします。</p>

## (2) 第 4 期障害福祉計画について

高橋会長	議題 (2)、第 4 期障害福祉計画について、まず事務局から説明をお願いします。
事務局 (染谷係長)	障害福祉計画についてお話をさせていただく。昨年 11 月まで各部会を中心に障害福祉計画の内容についてご討議いただき、12 月にその内容を議会に報告し、

	<p>12月15日から1月15日の間パブリックコメントとして市民からの意見募集を行ったところである。また、1月17日には市民説明会を行い、その後、いただいたご意見に関して1月23日に行われた地域自立支援協議会の各部会を中心として、検討結果を頂戴したところである。</p> <p>その結果を踏まえ、事務局で整理し、会長、副会長にご同意をいただいた上で、皆さまのお手元にある資料5にまとめさせていただいた。前回の部会でいただいたご指摘を、意見番号の1番と2番、7番のところで、意見に対する検討結果の文面を細かく表現を変えている。時間の関係で読み上げないがご確認いただきたい。</p> <p>それを踏まえて、結果的には障害福祉計画自体の内容を変更するには至らなかったが、いただいたご意見を整理し取りまとめた。</p> <p>庁内の庁議と行政報告として議会にもご報告し、2月15日からこのような検討結果にまとまったことを市民の皆さまにお示しをしているところである。</p> <p>3月末に計画ができて上がるので、その後皆さまのお手元に配布させていただき、また事業者の方、市民の方にもお渡ししたいと考えている。簡単ではあるが、ご報告とさせていただく。</p>
高橋会長	<p>ご意見、ご質問等あればお願いします。</p> <p>これはいつごろPDFなどで閲覧できるようになるのか。</p>
事務局 (染谷係長)	<p>市のホームページには既に掲載している。2月15日から3月15日まで閲覧できる。</p>
高橋会長	<p>完成版はいつになるのか。</p>
事務局 (染谷係長)	<p>納期は3月27日を予定しているので、次回の部会が3月に開催されればお渡ししたい。</p>
高橋会長	<p>何回かご検討いただいた結果、この形でまとまったのでよろしくをお願いします。</p>

### (3) 地域自立支援協議会のまとめについて

高橋会長	<p>議題(3)、地域自立支援協議会報告書(案)について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (染谷係長)	<p>資料6参照。第4期の活動内容をまとめて中間報告案としてお示しをさせていただく。</p> <p>1ページから、1 目的、2 協議会での協議事項、3 地域自立支援協議会の経過として、(1) 全体会、(2) 部会は、各部会の内容を掲載している。</p> <p>7ページの(3) 平成26年度の協議結果としては、①継続課題、②新規課題として平成27年度につないでいきたいと考えている事項。③平成26年度の成果物については、地域自立支援協議会として提出した地域防災計画へのパブリックコメントと第4期小金井市障害福祉計画、また、災害対策に関する協定書の様式などを参考資料として付ける予定である。</p> <p>3番までの内容を踏まえ、8ページに、4番、「平成27年度への引き継ぎ事項」を確認したいと思っている。引き継ぎ事項としては、全体会での議論や各部会での議論と分けることで次年度への動きが見えるようになっているものと考え</p>

	<p>ている。</p> <p>現在の内容は事務局案として提出したので、ご意見を伺って、最終的には高橋会長、矢野副会長と調整をさせていただき、5月に皆さまに配布する予定でいる。ご意見をいただきたいので、よろしくお願いします。</p>
高橋会長	<p>事務局から説明があったが、ご質問や課題等について、いろんなご意見を出していただき次年度につないでゆきたいと思う。いかがでしょうか。</p> <p>7ページ目に、平成26年度の協議結果として継続課題、新規課題がある。新規課題は差別解消法の施行と福祉マップの作成が記されている。これについてはまだほとんど手が付けられていない。4番の平成27年度の引き継ぎ事項としては、各部会から幾つが出されている。それに関わるご意見や新規のご意見等もありましたら出していただきたい。</p> <p>では、口火を切る形で、平成27年度の引き継ぎ事項として、生活支援部会から、障害者差別解消法の施行に向けた対策、市条例の案作り、障害者計画の検証のための実態把握の方法について、これ等は事務局と矢野副会長と協議する中で、来年の4月に障害者差別解消法が施行されるにあたり、国において合理的配慮の中身について検討の最中である。平成27年度には合理的配慮の中身についていろいろな案が出され、その協議が進んでいくことと思う。</p> <p>小金井市独自に障がい者の差別をなくしていく、あるいはもっと住みよいユニバーサルな社会づくりを目指していくということで、市条例を作るぐらいの高い見地から作業を進めるべきではないかという議論もしている。</p> <p>今年度は、第4期障害福祉計画や各相談支援事業など実務的な議論を進めてきている。そういったことを踏まえた上で、もう少し全体的な観点から障がい者の権利保障がしっかり進捗していくような議論をすることが必要ではないかと考え挙げさせていただいた。</p> <p>生涯発達支援部会の幼保小連携に向けた対策と書いたが、とりわけ就学前から学齢期へスムーズに移行できないという問題がある。国は、幼保小連携が全国的なものとして速やかに進めることが、小1プロブレムをなくすために有効だとしている。各自治体でいろいろな取り組みがあるが、残念ながら小金井市は幼保小連携についてはほとんど未着手という状況である。生涯発達支援部会は、国も進めているこの方向性を正面に据えて議論ができればと考えている。</p> <p>次年度の課題として出させていただいたが、いろいろな考え方があるので、沢山のご意見をいただきたい。</p>
矢野副会長	<p>生活支援部会は、地域防災計画へのパブリックコメントという形で、幾つかの提案ができ議論が深められた。課題として、地域の障がいを抱えている人たちの実態をもう少し把握して具体的なものを作っていくとはいけない。</p> <p>他市や他区の地域自立支援協議会の中では権利擁護が1つの大きなテーマになって議論されている。障害者差別解消法の実現に向けた講演会など、地域へ地域自立支援協議会として発信をしている。小金井市でもそういう発信ができないといけないと感じている。</p> <p>八王子市が条例を作って一歩先を進んでいるという話は、馬場委員からも情</p>

	<p>報提供があり、議論しなくてはいけないと問題提起はされている。もし部会の皆さんがそういう課題で取り組もうという方向性が出れば、部会の中で議論を並行してやっていけるといいかと思っている。</p> <p>他市の動向と比較すると、小金井市は遅れていると思う。小金井市の実態を生活支援部会で議論していきたいと思っているので、意見をいただきたい。</p>
馬場委員	<p>障害者差別解消法に関する取り組みは、やらなくてはいけないと思っているが、生活支援部会だけでは、7人の部会員だけの議論になってしまう。例えば、武井委員のような権利擁護の方は生活支援部会にはいないし、教育関係の方も生活支援部会にはいないので、学校における差別解消の話はなかなか出てこない。そのような垣根をどうしたらいいかと思う。</p>
高橋会長	<p>前年度までは全体会だけで議論してきたが、この1年、3部会でやってきたことについて総括をする必要がある。</p>
矢野副会長	<p>全てを生活支援部会でまとめるのは、荷が重いと思う。部会にいろんな障がい者団体の人たちに来てもらって意見を聞いているので、もっと枠を広げてやれるといいかと思う。当事者も含めていろいろな意見を聞かないと、情報としては偏ってしまう。全ての障がい当事者の生々しい意見が聞ける場でないといけない。</p> <p>他市の協議会では、当事者部会などが作られて議論しているので、当事者間で意見交換し要望など取りまとめているので、そんな場所も必要と思う。</p>
高橋会長	<p>2時間の枠で1時間15分を各部会、45分を全体会という形で、辛うじて3部会と全体会を並べてやってきた中で、どうしてもどこかでワーキングや特別部会などを作ってやらないと難しいのかと思う。</p>
事務局 (堀池課長)	<p>八王子市が条例を策定したが、八王子市の条例ができた経過は、事業グループで始めて当事者の方々からいろいろな話を聞き、素案までに2年から3年かけ、陳情を上げて、それが採択され条例化になっている。その経過と取り組みの様子を八王子市に確認したところ、まず始めは各関係団体がかなりの時間と労力を使ったと聞いている。</p> <p>千葉県と八王子市が先駆けでやったが、多くの労力を使う作業だと認識している。地域自立支援協議会でお話しいろいろ意見を聞いて検討をすることは良いと思う。ただ、拙速に障害者差別解消法が来年施行されるから、それに合わせて条例案を検討するというのではなく、小金井流に作っていければと担当課としては思っている。時間も必要で、スケジュールを組む必要もある。目標をいつにし、当事者団体の意見をヒアリングして、どのように進めるかを決める必要があると思う。来年の施行に合せてと言葉だけにとらわれて進めるのは拙速かと、懸念しているところである。</p>
矢野副会長	<p>来年度の全体会と部会、全12回の中でまとめられるかと言ったら、自信はない。ただ、先駆けて幾つかの自治体で作っている先鞭の情報はあり、現実に条例はできているので、それを軸に小金井版として地域の実態に合ったものをどう作るかの議論はできると思う。</p> <p>市条例を作るのは、市から議会に提案をしてもいいし、市議会議員を巻き込</p>

	<p>んで超党派でこの問題を一緒に議論する場を作ることでもあると思っている。しかし、当事者の意見をきちっと聞き取らないと課題や問題点を整理する場所がないので、その役割は地域自立支援協議会がやるべきと思う。他にそういう場があれば、そこに任せられるが、その辺の橋渡しをする場所として議論はできないか。</p>
事務局 (堀池課長)	<p>様々な議論をすることを否定するのではない。提案のやり方も、市側から、議員提案、陳情や請願といろいろなやり方がある。捉え方として、平成 28 年 4 月 1 日施行に向けてと目標を定めることは拙速であると懸念をしている。</p>
矢野副会長	<p>施行後にいろいろなトラブルが起こった時に、何もしてなかったとなれば行政責任を問われる。また、それぞれの事業所にしても責任を問われることも起こりうる。だから、この 1 年間でみんなが考える場所を検討すべきではないか。</p>
高橋会長	<p>八王子市等が取り組んだ時は、障害者権利条約は批准されてなく、障害者差別解消法も成立していなかった。本当に手探りで作ったプロセスがあり、時間もかかったと思う。既に障害者権利条約が批准され、障害者差別解消法が施行されるとなれば、国が決めた枠があるから枠の中でどう実現するかという話ではなく、小金井市が主体的に障害者差別解消法を受けて何が大事なのかということについて、ボトムアップしてきちっと議論を積み上げていく機会がなければ、抜け落ちることが多々あると思うので、そういう機会になればと思っている。</p> <p>そう簡単にできるとは思っていないが、物を考える枠として条例を視野に入れながら議論を積み上げていくことは重要だと思うので何度か事前協議でも提案させていただいた。</p>
森田史雄委員	<p>さくらシートが十分周知されてなく使われていない。アンケート結果をみても、小学校では半分ぐらいの方にしか知られていない。中学校ではほとんど知らないのが実情。中学校から高等学校への移行では情報が流れないことになる。障がい者への支援は、赤ん坊からお年寄りまで、せっかく作ったさくらシートの活用を検討すべきではないだろうか。</p>
高橋会長	<p>児童発達支援センター「きらり」を立ち上げる時に合わせて作成されたものであり、理解啓発も含めて取り組んでいただきたい課題である。</p> <p>幼保小連携や、小中の接続や、中学校から高校の場合は市を離れるが、その連携ということが 1 つの大きな課題として議論できればと思う。さくらシートの適切な活用ということで、生涯発達支援部会で議論を進めていくことは大きな課題になると思う。</p>
森田史雄委員	<p>連携のための媒体としてさくらシートを使うべき、防災や障害福祉サービスの利用に際しても活用でき、さらに介護保険関係でも十分使っていける。</p>
高橋会長	<p>連携がキーワードになってくると思うので、さくらシートは連携の重要なツールとして使ってもらえばいいと思う。</p> <p>発信に関しては、小金井市内にいろいろな団体が沢山あり発信をしている。ただ、なかなか全体に行き渡らず各団体の発信に留まっている。</p> <p>このような団体と地域自立支援協議会と共催や後援という形にして、市内で</p>



	<p>行われている様々な事業と連携し、タイアップしながら活動できないかと思う。</p> <p>地域自立支援協議会から発信することは、様々な考え方があるので積み上げてゆくことは難しいが、市内にある様々な団体の取り組みについて一緒に協賛や後援という形になれば、状況も把握でき、人との連携も容易になると思う。</p>
森田純司委員	<p>高橋会長のお話の連携や発信のところで提案したい。小金井市障害者地域自立生活支援センターでは災害をキーワードにした地域活動を行っていて、職員が聴覚障がい関連団体の災害対策委員会に参加するという形で実践活動に取り組んでいる。特に聴覚障がいの方たちの災害対策委員会は非常に組織立っていて、東京都聴覚障害者連盟と連携しながら、地域で聞こえない人たちの災害対策を継続的に積み上げている団体である。</p> <p>私たちが関わっている視覚障がいの方たちと、毎年の総合防災訓練の時などにメールを使った安否確認の実践をやっている。</p> <p>グループホームの方と社会福祉協議会の小金井ボランティア市民活動センターと連携して防災街歩きの中で、グループホームのメンバーと街を歩くということを自治会も巻き込んでやっている。障がい周知と防災活動という意味では楽しく、危険な場所も理解でき、災害時の流れが体験できる。</p> <p>もし可能であれば、これらの活動を地域自立支援協議会の看板を使って、他の地域の方たちにも周知していく活動につなげたいと思う。</p>
高橋会長	<p>地域自立支援協議会がもっと自由にいろいろなところとつながって発信できると良いと思う。例えば私の関係では、今年度だけでも2回の発達障がいの講演会を小金井市の発達にアンバランスのある子どもの親の会「ひまわりママ」などの当事者団体と連携しながらやってきた。せっかくの取り組みが一団体ではもったいないので、例えば地域自立支援協議会と協賛という形にすると、もう少し部会の中にも広がっていくと思う。</p> <p>今は部会ごと分かれて生活の人は教育とつながらないとか、逆に教育の人は就労とつながらないという話がある。もっといろいろなところと連携するような形ができるのではないかな。</p> <p>地域自立支援協議会の枠組みというのは創造的に作っていいのではないかなと思っている。行政から付託される課題はやるけれども、それ以外はかなり自主的にやれるのではないかなと思っているがそういう考え方は違うだろうか。</p>
事務局 (堀池課長)	<p>要綱に所掌事務があるので、それを逸脱することはできない。そういう中で地域自立支援協議会のあり方として、取り組んできた成果が政策の中に生かされてないとか、委員として選ばれて出席し発言したが次につなげるものが目に見える形でない等の意見があった。そこで今年度から部会を作り組織を見直した。</p> <p>ご希望やご要望、ご意見があれば検討はさせてもらうが、防災など他課に影響することもあるので、関係機関と調整等させていただきながら、できる、できないは返答させていただきたい。いろいろな提案をしていただくことを遮るものではない。</p>
高橋会長	<p>特別支援ネットワーク協議会はなくなってしまう、地域自立支援協議会は、</p>

	<p>ある面では唯一、いろいろな障がい施策について協議ができる場所なので、その意味では自分たちの手足を縛ることなく、もっと主体的に取り組んでいけばと思っている。</p> <p>ただ、皆さん市民ですから、やれることには限界があり、ここにだけ全力投球はできないと思う。しかし、主体的に頑張って、かなりのことをやっていかなければいけないことは間違いない。</p>
中村委員	<p>地域自立支援協議会は、いろいろな方のお話が聴けて、この場だけにしておくのはもったいないと思うことがある。</p> <p>例えば 10 回シリーズの講演会を企画し、チラシを 10 回全部作りやれればと思う。私が児童発達支援センター「きらり」で講演会をしようと思っても、頑張って 2 回ぐらいしかやれないと思う。</p> <p>いい先生が、知り合いににいるというなら、それぞれみんながプランを持ち寄れば、10 回が直ぐにできる。せつかくこれだけの委員が集まっているので、それを持ち寄ったら単発でやるよりは効果があり、選べるものができる。ここで話し合って終わってしまうのはもったいないと思う。</p>
高橋会長	地域自立支援協議会主催、自立支援講座、全 10 回。
中村委員	市も絡んでいるような内容だとすると、ちょっと効果がありそうな気がする。
高橋会長	地域自立支援協議会が主催する意味はある。講師も負担なく選出できると思う。
中村委員	一事業所が何かやろうとすると、会場係から何もかも全部やると大変だが、市と絡めるといろいろな意味で良いと思う。
高橋会長	例えば、地域自立支援協議会と絡めて、前半 1 時間が講座で、後半に協議会という形。前半 1 時間で市民から話があり、後半 1 時間で協議会、あるいは 2 時間でも構わないが、無理なくできると思う。
中村委員	市民が一番出やすい時間設定、内容にもよるが、午前の部、夜の部があったりしながら、バラエティに富んだ時間設定をしたり、会場設定したらいいのかと思う。毎回出なくても各委員で分担してやればできる。
高橋会長	1 人 1 講座を担当して責任を負う形でいいのでは。
矢野副会長	1 人 1 講座では大変なので、3 人 1 講座とか。
高橋会長	他市では、そんな講座をどんどんやっている。他市の取り組みは小金井市でできることがあると思う。発信はぜひ取り組みたい。
馬場委員	平成 27 年度への引き継ぎ事項の生活支援部会のところ、「障害者計画の検証のための実態把握の方法等について」とあるが、これはどこから出てきたのか教えていただきたい。
矢野副会長	<p>以前に障害者計画の作成の際に根拠になるものが手元にないので、当時の担当課長に小金井市内の状況を示していただいた。</p> <p>小金井市を各町にブロック分けして、障害者手帳を所持している方が何人ぐらい居住しているかの表を出してもらった経緯がある。それを基に全体をどのように考えたらいいか検討した。例えば高齢者は小金井市を 4 ブロックに分けてやっている。障がい者の関連施設等の所在を点でプロットして、手帳所持者</p>

	<p>が何人いて、学齢期、20代、30代、と年代で分類すると地域の特性が見えてくる。</p> <p>例えば貫井南町のエリアには、手帳所持者は大勢いるが障がい者に関わる施設はほとんど無い。しかし、東側になると精神障がい者のグループホームや、通所施設や公共施設が集中している。知的障がいも含めて、作業所、通所訓練施設、就労継続支援、相談支援など全部集まっていて、東の端や西の端へ行くと何も無い。</p> <p>小金井市の交通アクセスを捉えていくと、連雀通りを境に坂下と坂上という形で断絶している観がある。身体障がい者は坂下から坂を上ることが困難であるなど、実態が見えてきて、例えば貫井南町地域にも事業所を誘致する必要があることがうかがえる。</p> <p>今の委員の皆さんは、その後どうなったかなどの情報が無いので、定期的に情報を市から出してもらおうと、小金井市の全体像を見ながら議論できるようになる。実態把握をするには、データを出してもらい議論するとより具体的に検討できると思う。今度の障害者計画の見直しの際には根拠に基づく議論ができるように提起している。</p>
馬場委員	障害者計画の次回見直しは何年度ですか。
事務局 (染谷係長)	平成29年度施行、平成28年度見直し。
事務局 (堀池課長)	平成27年度に障害者計画のためのアンケート調査を行う。
矢野副会長	現行の課題について議論しているところで障害者計画の見直し作業が始まるので、障害者計画の見直し作業の根拠になるものを事前に分かっていないと議論ができなくなる。
事務局 (堀池課長)	来年度はアンケート項目の検討をしていただく作業までと思っている。
本田委員	<p>この報告書は最終的にいつできるのかと、今年度から部会を作って検討する仕組みにしたということだが、どの部会でどんなを議論しているとか、それぞれの部会で議論した結果どんな課題が出されてこの引き継ぎに至ったのか、まとまった内容が書いてあると分かり易いと感じた。</p> <p>私は小金井市の地域自立支援協議会の委員になって1年だが、各部会が、どんなお話をするのか最初よく分からなかった。</p> <p>報告書は、市民が見たり、委員になる方が見たりするので、地域自立支援協議会の全体像が分かるようなものがあって、どんな議論がされてきて、この引き継ぎ事項まで至ったのかということが、絵や図で表現すると分かりやすいと思う。報告書の案としてそういうのも入れていただけたらと思う。</p>
事務局 (染谷係長)	来年度、5月の全体会で再度ご提示する予定。
高橋会長	5月の全体会で報告する。どんな形で公表するかについては未定、初めての試みなので今後検討する。

馬場委員	この報告は誰に対する報告なのか。市民に対する報告なのか、市長に対する報告なのか。
事務局 (堀池課長)	市長にも市民に対してもである。
馬場委員	市民に対する報告なら、もうちょっと詳しく書かないと駄目だと思う。
事務局 (堀池課長)	確かに言われるとおり、誰が見ても分かりやすいように図で示したりすることはさせていただきたいと思う。
馬場委員	各部会長の感想みたいな、経過と結論に至るまでの経緯を書いてもらうのもありだと思う。
高橋会長	各部会のまとめ、課題をそれぞれ出していただくということは当初から話があった。今回は、たたき台なので、ここでの議論が、どういうレベルの報告まで持っていくのかということになるので、ご意見を沢山出していただいて骨格づくりをしてもらえたらと思っている。
本田委員	皆さんが言われていたような議論だけではなくて、発信していくことの可能性だったり限界だったりいろんな意味であると思う。先程、言われた講演会のようなことも今後やれる可能性が入っていると、少し幅が広がる協議会をイメージできると思った。
吉尾委員	地域自立支援協議会のことは、市のホームページを見て分かる状況なのかどうか。それと連動してどういう情報が出ているのか。例えば講演会が単発で終わってしまったとしても、ここを見れば分かるというものがあるのか。例えば5月発行のものは、ここをクリックすれば見ることができるとか、ビデオで観ることができるなど、そういったことを分かっているのか教えていただきたい。
事務局 (染谷係長)	自立支援協議会のことについては、小金井市のホームページの「各課のページはこちらから」のところから自立生活支援課をクリックしていただき、地域自立支援協議会の項目があるので、そこへ進んでいくと、委員の皆さまの名前とか任期とか掲載している。併せて議事録などもそこに掲載しているので、講演会などされた場合に、その資料や内容は同じような形で掲載することはできると思う。
矢野副会長	まだ一度もやってないので、生活支援部会でいろいろとまとめた資料などを、議事録の後にホームページでアップしてもらいたいと思う。それが最初の発信となる。
事務局 (染谷係長)	講演会をなさるということであれば、市報やホームページで広く周知させていただいて、多くの皆さまにご参加いただくような形もとれると思う。
高橋会長	<p>市のホームページを見ると、この街が障がい者や社会的弱者に対してどういう視点を持っているのか分からない。小金井市がどんな街になるのかという方向性を含めて、ホームページ全体のあり方についても、掘っていかないと見つからないというのは、障がい者施策の場合は特にクリックすることが大変なので、いろいろなことを含めて課題はある。</p> <p>確かに載ってないわけではないが分かりにくい。ホームページの真ん中に、誰もがスッと目につくようなところに、子どもの問題、高齢者の問題、障がい</p>

	<p>者の問題があるようなアプローチが必要である。そこまで行けるかどうかは、この協議会のあり方が1つ重大な鍵になるかと思っている。</p> <p>寡聞にして知らないというのは、見え方がそういうふうになっているので、そこが改善課題なのかと率直に思う。まだ、何も形は決まっていないので、いろいろなご意見を踏まえながら意義あるものにしていきたい。</p>
緒方久美委員	<p>幼保小連携に向けて対策ということで、どういうことができるのかという質問も兼ねて話したい。障がい児のみではなく、健常児も含めて、幼保小の連携が小金井市はとられていない。入り口がどこでも構わないが、幼保小の連携を行っていく場合、誰が声をあげて積極的に進めていくのかが疑問である。</p> <p>今年度部会を行ったときに、障がい児の親御さんに意見を聞く場はあっても、小学校の先生が委員にいないので受ける側の話は聴けない。</p> <p>私は民間保育園の代表で来ているが、社会福祉法人と株式会社があって、株式会社は1園だけだが、社会福祉法人と株式会社では保育園の運営や抱えている問題も違っている。</p> <p>公立の保育園に関しては、保育園の中でも意見交換が全くできないような状況がある。地域自立支援協議会が声をかけて、保育園の方、幼稚園の方、また小学校の先生たちを呼んで意見交換ができるような場をつくることは可能なのか。もし可能であるなら、そういうことをこちら側から声をかけて来ていただいて、場を設けることも必要なのではないかと思う。</p>
高橋会長	<p>私は研究室で幼保小連携の調査をしている。幾つかの自治体に幼保小連携の講演に呼ばれて行った中で、進んでいると思われるところの多くが教育委員会主導で、教育センターや子ども発達センターなどをうまく束ねながら、文部科学省が提案して、幼保小連携スタートカリキュラムを作り、実際に研修しながらやっていく形である。</p> <p>その認識が残念ながら小金井市の教育委員会にはないのが現状である。どのように橋渡しをするのかはさんざん議論している。ここに教育委員会の方が直接は来ていらっしゃらないのでいつも難しいなと思っている。国が進めていることを市町村、自治体がなぜできないのかを含めて、もっと検討しなければいけないところだと思う。</p>
刀根委員	<p>幼保小の連携、小中の連携といろいろあるが、現実には教育委員会、学務課が中心になって動いているという現実はある。</p> <p>小中の連携ができた場合でも、実は校長会という会議は小中一緒にやっている所以管理職はいろいろ情報交換されていく。教育委員会からも小中同時に全部おりてくるというシステムはできているが、小学校の先生方、中学校の先生方が連携できる場所は多くはないのが現実である。</p> <p>中学校を中心にして、関係している小学校のグループがあって、小中連携の形で小学校の先生が中学校に来たり、中学校の先生が小学校に来たりして、年1回程度はお互いに授業を見せ合い交流している。</p> <p>小金井市では教育研究団体、市教研があるので、小中合同の部会で、お互いに情報交換もできるようになっている。</p>

	<p>今後さらにそういったことを進めていくためには、かなり教育委員会から強力にいろいろな動きをしていかないと難しい部分はある。</p>
高橋会長	<p>私は間もなく福島県の郡山に研修へ行くが、郡山で幼保小連携が始まってちょうど3年になる。年間5回ぐらい、全体の研修会、幼稚園、保育園、小学校、そこに教育委員会が関わって140から150名ぐらいの研修会を年間5回ぐらいやる。</p> <p>そういうものをして初めて、一堂に会して、何か取り組まないといけないということになってくる。それを3年やってきて、ようやく軌道に乗っているという感じがある。着手する一歩手前に小金井市はあるので、それをどういうふうに手を付けていくのかというところが、なかなか難しいところがある。</p> <p>例えば問題があるなら提案をして、それを市から教育委員会に伝えていただくということも1つであると思う。</p> <p>実感として、やれば本当に変わるなという率直な印象である。小学校にスムーズにスタートしていける。小1プロブレムは本当になくなってくる、それは実感として感じている。</p>
森田純司委員	<p>障害者差別解消法について勉強したいので、ぜひ委員の皆さんとも同じ勉強内容を共有したいと思っている。もし可能であれば、地域自立支援協議会で内閣府の方をお呼びいただいて、1回目の全体会で開催できればと思う。</p>
高橋委員	<p>私も、実はそのことは頭にはある。しかるべき人はいるので、まず委員が学習をしっかり積むことが必要だと思っている。</p>
馬場委員	<p>ガイドラインが出るのはいつぐらいの予定になっているのか。</p>
事務局 (堀池課長)	<p>方針が出るのが夏ぐらいで、動向は注視しながら進めたい。 勉強会は検討する。</p>
馬場委員	<p>ガイドラインが出たときに、そのタイミングできちんと内容を説明していただければ助かる。</p>
事務局 (堀池課長)	<p>出来る限り情報提供はさせていただく。</p>
高橋会長	<p>森田純司委員が言ったように、委員だけでなく、市民向けの講演会とか、会場をもうちょっと大きくしていけると非常に有効じゃないかと思う。そういったことも含めて検討をお願いします。</p>
馬場委員	<p>事業者の方も影響があるので、聞いて損はない。</p>
高橋会長	<p>庁内だけでなく、公的機関は合理的配慮が義務となるので、公立の小中学校、教育委員会、国立大学など、そろって参加できればと思う。もし地域自立支援協議会の主催でやるなら、非常に大事な取り組みであると思う。</p> <p>先ほども矢野副会長から話が出たが、3部会だけでは難しいと思う。当事者の参加をもっと進めるべきである。今年1月17日に行われた第4期障害福祉計画の市民説明会の時にも、東京都の自立支援協議会のメンバーでもある精神障がいの方の当事者の方が、都は既にやっているのに、小金井市がやらないとは何事かというお叱りを受けた状況である。さらには発達障がいとか知的障がい、聴覚障がい、身体障がい他のいろいろな障がいの方、難病を含めて、もっと参加</p>

	<p>する機会を設けていただきたい。それが難しい場合は、せめて部会の中にお呼びして、各部会で意見を聞く形にできればと思う。</p> <p>生涯発達支援部会では、発達障がい当事者のお母さん 2 人に来ていただいてお話を伺ったが、非常に参考になった。当事者の方にもぜひ来ていただいて、皆さんで意見共有できればと思う。その方向でもよくご検討いただきたい。</p> <p>地域自立支援協議会報告書（案）は、市民の方々にも読んでいただけるように手を入れなければならない。かつ地域自立支援協議会からこの 1 年間の成果が発信できるようなものに鋭意努力をしていくという方向で、あと 2 カ月検討する期間があるので、よろしくお願いします。</p>
--	---

（４）その他

一同	特になし
----	------

３．事務連絡

（１）第５回地域自立支援協議会（第４期）の開催について

高橋会長	次第 3、次回開催について事務局から説明をお願いします。
事務局 （染谷係長）	スケジュールについて説明をする前に、1 点確認をさせていただきたい。現在、副会長を担っていただいている矢野先生が、3 月 31 日をもって小金井特別支援学校を定年退職される。小金井市としては、今までの経過と任期途中ということもあり、矢野先生に引き続き教育関係者としてご参加いただきたいと考えている。また、この件に関して、小金井特別支援学校の坂口校長先生にご相談したところ、地域自立支援協議会が同意してくださるのであれば学校としても推薦書を提出するというお話を頂戴している。皆さまにもぜひご同意いただきたい事務局から提案させていただく。
一同	（拍手）
高橋会長	同意がいただけたので矢野先生には 4 月以降も委員としてよろしくお願いします。
事務局 （染谷係長）	地域自立支援協議会の開催の日程は、平成 27 年度も今年度と同様に毎月第 4 金曜日の夕方 5 時からということでよろしいかどうか伺いたい。
一同	異議なし。
高橋会長	次年度も今提案があったようなスケジュールで、5 月からは毎月第 4 週の金曜日午後から開催することとさせていただく。

（２）その他

高橋会長	その他、事務局から何かありますか。
事務局 （染谷係長）	次回、3 月の実施についてご意見を伺いたい。
高橋会長	3 月は予定していなかったが、2 カ月空けてしまうと課題が飛んでしまい、もったいないと思うので、3 月もぜひ部会を開催したいが、いかがでしょうか。
一同	異議なし。

高橋会長	同意をいただいたので 3 月に部会を開催することで、事務局から日程の提案をお願いします。
事務局 (染谷係長)	3 月 27 日金曜日夕方 5 時ということで、場所については改めて開催通知で 示しする。
高橋会長	年度末ぎりぎりであるが、3 月 27 日金曜日午後 5 時、3 月の部会として提案 させていただく、よろしくお願いします
森田史雄委員	相談支援部会、今年度 4 時半から開催をしているが、次年度も同様でよろし いでしょうか。
高橋会長	では、相談支援部会は 4 時半から。 今日の議題は全て終了した。その他ご意見、ご質問等なければ、これにて第 4 回の地域自立支援協議会を閉会する。

以上